

競技力向上 次代を担う顧問・選手育成

卓球専門部 県立川口東高等学校 木村 康之

はじめに

ロンドンオリンピックが、終わり、日本は過去最高のメダル獲得数となりました。卓球も女子団体が銀メダルを獲得しました。シングルスでもメダルこそありませんでしたが、活躍しました。卓球も昔よりは、かなりメジャーなスポーツになりました。活躍している選手は、愛ちゃんをはじめかなり小さい頃から卓球をはじめて現在に至っています。ジュニア時代の取り組みが活躍する選手への鍵となっています。残念ながらオリンピックで活躍する選手に埼玉県関係者はいませんが、かつて埼玉県は、男子については、吉田監督が熊谷商業高校および埼玉工大深谷高校で幾度となく全国制覇を成し遂げました。日本男子卓球界には吉田監督の教え子が数多くいます。現在吉田監督は、埼玉を去り青森で指導をされています。埼玉の男子は、常に全国で活躍するとまではいきませんが、関東ではかなり活躍しています。女子は、現在、平監督のもと正智深谷高校がここ数年全国で3位となり、かなり充実した活動をしています。

1 課題とその解決に向けて

競技力向上についてですが、世界で活躍する選手ということになると中国のように国として一貫した指導のもと選手育成を行う必要があるように思います。卓球ではナショナルトレーニングセンター（エリートアカデミー）でそのような試みを実践しています。埼玉県が全国で活躍する選手を輩出するというのであれば、優秀な指導者が全国から選手を集めることが必要です。競技力向上には、当たり前ですが良き指導者と良き環境、やる気のある選手が必要です。その条件を整え、部活動の活性化および底辺の拡大をいかに図るか考えてみたいと思います。

顧問（指導者）についての課題は、①顧問の高齢化(年齢の不均衡)②顧問育成のシステムの確立③転勤などによる継続指導の難しさなどが挙げられます。

生徒（選手）についての課題は、④女子部員の減少⑤競技開始年齢の低年齢化（ジュニアの育成）などが挙げられます。

- ① 顧問の高齢化は、どの運動部活動にも言えることで卓球専門部の調査によりますと平成23年度の顧問の平均年齢は46.5歳とかなり高い数字になりました。これは、少子化で教員採用の関係が大きく影響するので、すぐに解決する問題ではないのである程度現状で頑張っていくしかないのかもしれない。
- ② 顧問の育成は、現状大学までに卓球をやってきた先生が、高校の現場で独自に勉強し生徒を指導しているケースが多いように感じます。しかし、卓球は、怪我も少なくルールも複雑ではないので、技術がなくても顧問として十分にやっていけるスポーツですから、経験の有る無しにかかわらず指導することが可能です。身近に教えてくれる先生や複数の顧問がいる場合に勉強する方法もあります。また、県内にも優秀な先生や選手が多くいらっしゃいます。そういった方々と連携をとり指導法などを勉強していくことです。実際に高体連卓球専門部でも指導者講習会を実施しています。また、指導書（卓球コーチング教本）や卓球の月刊誌もありますので、それらを利用することが考えられます。さらに、日本体育協会や日本卓球協会による公認コーチの資格取得や上の指導者を目指すことも可能で、指導者養成システムも強化されてきています。ただ、高校や中学の顧問レベルでの育成プログラムはしっかりしていないように感じます。

- ③ 私立高校は、あまり関係しないかもしれませんが、公立高校には転勤があります。そのために優秀な先生が転勤した学校は2,3年で強くなりますが、去った学校は数年で弱体化してしまいます。継続的に強化されることが難しいように感じられます。これも、教員の人事異動の関係なのでやむを得ないことかもしれませんが、なにか時間をロスしているように感じます。うまく顧問の継続指導が出来ることを期待します。
- ④ これも、卓球に限ったことではないのかも知れませんが、中学校では卓球をしていたが、高校ではやらないという生徒が男子に比べて女子は多い。実際、高校の大会では、女子1に対して男子は4といった具合です。ですから、女子は試合に出てもすぐに強い選手に当たってしまい卓球を楽しむことができない。また、練習試合を組むにも各学校4名以下ということが多く、なかなか他校との交流も難しい現状です。卓球協会登録数は、男子174校、女子140校で3085名と、愛知県、東京都、神奈川県について全国第4位であり、埼玉県が特に少ないということではなく、埼玉県は、卓球人口が多い県であり、それによってインターハイへの出場数が増えています。ただ、部活動全員加入制や中高の連携により部活に入部する生徒を増やしたり、入部した生徒を辞めさせない努力をしていかないと底辺拡大は難しいかも知れません。
- ⑤ やる気があり高校でも卓球を頑張ろうと思っている生徒や実際に高校で活躍する生徒のほとんどは、中学校あるいは小学校から卓球を行い、多くの大会に出ているケースです。高校の部活動からでは遅いのが現状です。埼玉県にも多くのクラブチームがあり、そこで活躍した選手が高校でも活躍する構図があります。高校だけで成長するには時間が足りず、ジュニアからの育成が、必要になっています。中高連携やクラブチームとの連携、自らジュニアのクラブの指導と高校以前の指導も考えていかななくてはならない時代になっています。

まとめ

卓球専門部として、関東高体連卓球専門部強化練習会（高大連携）や茨城交流、山梨6県交流（他県との交流）など1高校の枠を超えた強化を行っています。さらに、指導者講習会やインターハイや関東大会の開催を通じ顧問同士の横の連携を強化し指導者としての資質向上を図っています。さらなる指導者の育成に向けたプログラムを確立し、埼玉県が全国に知られるように努力していく必要があります。

最後にまったくの私見ではありますが、高校の特色という点でどこの高校でも同じ部活動があるのではなく卓球ならこの学校（ある程度のレベルに差を設けて）というように拠点校を作るといいように思っています。顧問も力のある先生を複数配置し、しっかり指導する体制をつくるようにしていきます。そういった意味で人事応募制度や表明制度があるのかも知れませんが、機能しているかは私にはわかりません。また、社会体育やクラブチームへ移行するという考えもあるかも知れません。卓球のエリートアカデミーは学校体育ではなく、あくまでクラブチームとしての存在です。JOC および日本卓球協会の試みとして行われていますが、部活動も最終的にその方向に進むこともあるのかも知れません。

いずれにしろ現状では、顧問同士の連携を密にとり、知識と情熱を持って生徒への指導に当たることが重要のようです。